類題詞集

自在菴輯
園井莽莽

紅

[illegible]

[illegible]之こゝハ此
国もの素也刀ゝ[illegible]
こゝ乃和歌を拾ふ
同すき業をなすこと
[illegible]
[illegible]
[illegible]

紅花新影農句集

去々新

正月 一
初日 二
初影 二
門松 三
子鶴 四
若歳 四
松の内 五
雪解 五
春雨 六
水日 八 分去日
去年 九
若菜 十
若竹 十一
柳 十三
椿 十四
元日 一
初空 二
初鶯 二
若水 三
蓬莱 三
緋寒子 三
雑煮 四
緋彩引 四
猪引 四
子の日 五
春雪 六
陽炎 七
春水 七
東風 八
小松引 九
芹焼 十
土筆 十
落雁 十
梅 十二
初午 十四
松花 十四
猫恋 十五
白魚 十五

目録

鶯 十五
雲雀 十六
多鳴 十七
霞 十七
海苔 十七
春日 十九
霞 十八
二月 十八
朧月 十八
春雨 十九
霞夜 十九
几巾 十九
彼岸 二十
初桜 二十
石梅 廿一
橘本 廿一
苗代 廿一
菜花 廿一
蕨 廿二
清明 廿二
燒野 廿二
燒野 廿二
蕨 廿三
雛子 廿三
帰雁 廿四
子雀 廿五
蝶 廿五
蝶 廿五
田螺 廿六
三月 廿六
雛 廿六
汐干 廿七
忘霜 廿七
暮春 廿七
桃 廿八
花撰 廿八ヨリ至三十

夏之部

四月 一
紅夜 一
夏夜 一
牧懶 二
蛍扇 二
牡丹 三
杜若 三
芥子花 四
若葉 五
初花 五
筍 六
麦秋 六

郭公 七
雨子鳴 八
蛍 九
蚊 九
松魚 八
五月 十
端午 十
五月雨 十一
菖蒲 十一
田植 十二
紫陽花 十二
百合花 十三
接子 十三
山花 十三
茄子 十四
若竹 十四
蟬 十四
水鶏 十五
茗荷子 十五
帷子 十五
六月 十五
氷室 十六
暑 十六
涼 十六
青蛙 十七
夏月 十七
雲峰 十七
丘雨 十八
清水 十八
蓮 十九
夕涼 十九
足袋 廿
青田 廿
夫取 廿
土用丁 廿
法華 廿

秋之部

七月 一
初秋 一
七夕 二
銀川 三
踊 四
相撲 四
兎糸 四
初嵐 四
稲妻 五

露 五
一葉 七
木槿 九
淀花 十
蓮花 十一
鶉 十二
雁 十三
八月 十四
紅雪 十五
秋月 十七
花聖 十八
稲 十九
搗衣 廿
九月 廿一
暮秋 廿二
紅葉 廿三
落水 廿四
霧 六
朝皃 七
蓮 九
角 十
月 十一
鶴鈴 十二
賜 十三
菜山子 十三
吟子 十四
八朔 十四
十五夜 十五
初紅葉 十八
芙蓉 十八
雁花 十九
後月 十九
酒 廿一
石月 廿一
蓼 廿二
木実 廿四
秋霧 六
女郎花 八
萩 十
月 十一
鶴 十二
鶴 十三
鳴子 十四
紅葉 十四
十六夜 十六
芒 十八
雁 十九
後月 十九
酒 廿一
蓼 廿二
木槿 廿三
柿 廿四

十月 一
小春 一
初時雨 二
木枯 三
初霜 四
紅葉 四
霜 四
初雪 五
雪 五
霰 六
寒 七
後月 八
史補 八
梅 八
炭 九
菜花 十
帰花 十
山茶花 十
牡丹 十二
大根引 十二
後月 十二
冬菊 十二
水仙 十二
木瓜 十二
河豚 十三
生海苔 十三
水鳥 十三
冬蕨 十四
野 十四
炭 十四
鶯 十五
鶏 十六
猫代 十六
紙衣 十七
十一月 十七
冬ごもり 十七
暖 十七
鶯 十七
神楽 十八
十二月 十八
冬入 十八

落掃 十九
年内立春 十九
歳暮詞 限経
餘情 十九
春之部 九
月行詩

新撰詞花集巻之中

浪花 自五条光林輯

春之部

正月

正月やのき[illegible]車小[illegible]杉

正月やれハアハ乃[illegible]暗し、寄陽

浦伝ひの月きくや泊る舟、鼎左

水ゆ山きも正月ゆ[illegible]ハ[illegible]ら、懐之

[illegible]も正月ら[illegible]の上 荃叟

正月のまゆ行しや 坪の月 沈酌

海ゆ七人も正月[illegible]ら[illegible]一 昊

[illegible]も[illegible]、朱末

月ゆ続くきりの撫揉保、大梅

正月や山ゆ行ゆ[illegible]梅子 後墓

ふるの中 [illegible]物く 光林

元日

元日や二りゆ[illegible]ゆ[illegible]

初日

年深き所にぬ初りの年を山ぶ　ユト　渓物

初室

初室や一枝さき残れる梅　ユト　紅梅

初室やなくもり沈む山の色　ユト　内藤

初室や二尺の頂ひくうふ　ユト　八島

初室や行ひも起さとしの新　ユト　陳見

初室や年ゆくとしの山のいろ　ユト　光林

初鶯

初鶯や糸垂れ柳も伸めるる　ユト　素雨

初鶯や鳥ゆ[illegible]　ユト　[illegible]

初鶯や[illegible]の屋まても　ユト　[illegible]

初鶯や[illegible]　ユト　素屋

初鶯や[illegible]　ユト　[illegible]

初瀬ゟ、明日は、はつせ

初瀬

[illegible]

清降

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蓮葉

蓮葉の形さまざまに成ぬる　義経
蓮葉と七夕祭をとりかけ　井左　十六
かくれ水の葉ノ蔭や梅杜若　九紀
蓮葉を手傳の掛隠ぎ　未木
蓮葉も新てくれし紙の髪　素信
蓮葉を恋ぶ匂へ和泉ぶ　蓼机
蓮葉や海山うけて口の袋　一具
蓮葉のあさ葉のそよぐ夏の風　光林

稚子

稚子は牛後もわかるる乃義
稚子の毛門くらべぬ新刀し　素信
稚子は手傷お竹　素屋
植木屋で毒で毒ゝ稚子　杜鵑
牡丹うゑ子を病や稚子牛　并仝
蓮葉ぬ打扇や稚子　光林

子鶏

子鶏は通むてぶ　梅通
鶏は扇とするもぶ　鶏ぶ　ヨト　鶏ぶ　蓮葉
吹ぬれぶつのぬるる鶏ぶ　蓮物
鶏葉の傷ぬてはくる鶏ぶ　為山
ぬつ欠通るるなる鶏ぶ　素屋

稚子自宅川

稚子や見い捨てもにてしき　本木
稚子や見ぬ後もんてのくる雪　學亦
稚子やまこと通ぬぶ　性孝
宝引やあ広くくとけの門　財屋
宝引や笑ひもつてそ　松海

雑煮

舟来の字ぶ内捨ぶて雑煮ぶ　卓池　ミカハ
蓮葉つく宗の捨も雑煮ぶ　素信
雑煮かくてはく出ぶり松二系　逸海
雑煮のまくかりぶ雑煮ぶ　昌彩
蓮くれぶ中喰き雑煮ぶ　雪車　十六

年歳

万葉集巻八 十六 水行
万葉の大つかくる 往く郎 十二 白露
万葉集巻十 ふる人 岩垣
万葉集二 肝一結 ふる人 岩垣
万葉集巻十 古よ 神の戸 必山
門 万葉集巻十 大橋
万葉集巻十 ひろく 清水 摩寺
万葉集巻十 小実鍬 寺院
万葉集巻八 ちる 小実鍬 寺院
万葉集巻八 ちる 赤信
万葉集巻十 春 夫の味 初 万葉集巻十 并令
万葉集巻十 少 万葉集巻十 光林

犯引

はるかて 犯 春 万葉集巻十 吸 赤信
犯引 春 万葉集巻十 九起
春小 犯 万葉集巻十 赤屋
紀 子 万葉集巻十 犯 月 犯

万葉集巻十 犯引 猿 犯 世間
犯引 猿 犯 月 犯
左義長 ちんと

松の内

山 万葉集巻十 新 万葉集巻十 松の内 十六 新
万葉集巻十 新 万葉集巻十 松の内、
万葉集巻十 松の内 万葉集巻十
拭 万葉集巻十 松 清水
一 万葉集巻十 松の内 性子
先一 万葉集巻十 松の内 石山

子日

行 万葉集巻十 子日 清水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

陽もうゝ木の根乃もきゝ家あゝ　雄氏
陽もや草のまゝ乃わもくまし　光林

春水

柳芽の根もちゝとまの水　陸奥
まゝの水ゆゝなるゝ　雄峯
いさゝゝ乃芽と根さゝて　十六　柳宝
移ゝきゝ中もなゝ　まゝのあ　冨文
根さゝ陽ゝ中ゝ　まゝ乃水　東洲
今ゝまゝさゝ　まゝのあ　養切
土筆ハ陽ゝゆゝ　まゝのあ　學舟
ゝ乃ゝ緑の陽ゝ　まゝ乃水　淡雪
柳芽ゝ中ゝ　まゝのあ　大梅
加茂川や　まゝのあ　義柱
桑畑ゝ陽ゝ　ゝ乃水　氏方
山ゝゝ出ゝ　まゝのあ　考陽
まゝ中ゝ　ゝ乃水　最き
まゝの水海乃中　陽ゝ　二十　成美

芽の根ゝ　まゝの水　東信
陽ゝ中ゝ　まゝの水　結き
陽ゝ山ゝ　まゝの水　十八　士朗
まゝの水ゝ中ゝ　車　九起

永日　社会日

永き日ゝ中ゝ　たゝあ
永き日や水ゝ　井左
日ゝ山ゝ　旅の者　養切
陽ゝ中ゝ　十日月　雀物
なゝき日ゝ　ゝ乃　學舟
永日ゝ仏ゝ　ゝ夕陽　史聲
ゝ芽ゝゝ　ゝ　東洲

東風

初東風ゝ中ゝ　ゝ松の陽　十六　世人
東風吹ゝ　ゝ　陸奥
東風吹ゝ中ゝ　ゝ風の温気　養切
郭陽ゝ中ゝ　東風ゝ　帆の丸ゝ　景左

春風

路の末二又かしを　比久
まつほやうゝおろされの宮ゆく　左衛
まつほやうゝおろされの宮ゆく　左衛
末ほやうゝおろの地しる　由楚
孫てるかゝ　桜のさゝやの風　乃山
まつほの宮ゆきてゆく　乙良
まつかしく小末新　やまの風　京信
ゆきまのなかゝしてまつの色　堅敬
ゆくておくまき岬やまの風　未末
松うゝむまのゆゝやまの風　桃室
絡しき枝の作やてるの色　左衛
末の風ゆゝの松葉も華　寄浦
徒人て紅葉ゆゝおてまの風　九郎
まゝ草の風ゆゝ水やまの色　而古
松ゆゝおゝ消て名かゝまの風　京池
雄のまゝ絡のかやてゆゝ　大鳥

人をかたゝ接ゝ紅りやまの風　世南
門ゆゝ立てる士六をゝ　光林

玄丙

紫陵の洗ゝもゝてゝの丙　基村
りちんと鳴ゝかやてまの色　景孝
絡ゝ岩ゝ火移ゝゝ　松陵
雪ゝやて草吹ゝ　世南
まゝの中掛ゝ紅ゝめ　蓋北
撥さゝん火の保ゝ　廿山
まゝの中絡の岩ゝ　井資
まゝの中一枝つゝ　溪系
まる絡ゝ表ゝ　武松
撥の戸口取ゝ　浅雙
清さ木の戸表ゝ　青伝
五郎の力る庭や　十六兆
れ掃除ゝ　所
まゝの中只紫宮ゝ　而古

[illegible]

水竹

[illegible]

赤屋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

土筆

菫菜

芝草

竹

春子

[illegible]

梅

[illegible]

[illegible]

梅の花盛りて匂ひ遊く　李陽
うぐひすの来て鳴くなる梅の花　深草
春の新年池の面よりうめのむ　紫式
山陰や雪ゆゑ咲く梅の花　万利
山陰や雪ゆゑ咲く梅の花　清覚
あるかなきかに見えし梅の花　義推
ちるまつ山や春ふかくよる梅の花　又外
宗鑑が来て清匂ひ梅の花　坊山
おもかげ立てつもる梅の花　梅俊
さいとて去ハうてしく梅の花　雄岩
あハきいきあ寄や梅の花　与島
秋の月もたゆめ間つや梅の花　水月
小夜ふの月のさりや梅の花一ツ　保覚
き分て梅と樓のハ小舟や　光林

柳

田一枝うけの柳きー柳　李陽
芳雄ゆくるる新あるる柳　意軒

柳の花清して匂ひ遊く　李陽
うぐひすの来て鳴くなる柳の花　深草
春の新年池の面よりうめのむ　紫式
山陰や雪ゆゑ咲く柳の花　万利
山陰や雪ゆゑ咲く柳の花　清覚
あるかなきかに見えし柳の花　義推
ちるまつ山や春ふかくよる柳の花　又外
宗鑑が来て清匂ひ柳の花　坊山
おもかげ立てつもる柳の花　梅俊
さいとて去ハうてしく柳の花　雄岩
あハきいきあ寄や柳の花　与島
秋の月もたゆめ間つや柳の花　水月
小夜ふの月のさりや柳の花一ツ　保覚
き分て柳と樓のハ小舟や　光林

柳

田一枝うけの柳きー柳　李陽
芳雄ゆくるる新あるる柳　意軒

柳の花清して匂ひ遊く　李陽
うぐひすの来て鳴くなる柳の花　深草
春の新年池の面よりうめのむ　紫式
山陰や雪ゆゑ咲く柳の花　万利
山陰や雪ゆゑ咲く柳の花　清覚
あるかなきかに見えし柳の花　義推
ちるまつ山や春ふかくよる柳の花　又外
宗鑑が来て清匂ひ柳の花　坊山
おもかげ立てつもる柳の花　梅俊
さいとて去ハうてしく柳の花　雄岩
あハきいきあ寄や柳の花　与島
秋の月もたゆめ間つや柳の花　水月
小夜ふの月のさりや柳の花一ツ　保覚
き分て柳と樓のハ小舟や　光林

柳

田一枝うけの柳きー柳　李陽
芳雄ゆくるる新あるる柳　意軒

柳の花清して匂ひ遊く　李陽
うぐひすの来て鳴くなる柳の花　深草
春の新年池の面よりうめのむ　紫式
山陰や雪ゆゑ咲く柳の花　万利
山陰や雪ゆゑ咲く柳の花　清覚
あるかなきかに見えし柳の花　義推
ちるまつ山や春ふかくよる柳の花　又外
宗鑑が来て清匂ひ柳の花　坊山
おもかげ立てつもる柳の花　梅俊
さいとて去ハうてしく柳の花　雄岩
あハきいきあ寄や柳の花　与島
秋の月もたゆめ間つや柳の花　水月
小夜ふの月のさりや柳の花一ツ　保覚
き分て柳と樓のハ小舟や　光林

柳

田一枝うけの柳きー柳　李陽
芳雄ゆくるる新あるる柳　意軒

杜鵑
門の柳や　杜鵑
柳本の水かゝまむ水月
柳の上や柳の花　梅通
柳の花　而后
柳の花　蓼太
柳の花　桃足
柳の花　雄拙
柳の花　水月
柳の花　九起
柳の花　まめ信
柳の花　波雄
柳の花　由華
柳の花　又外
柳の花　昌碩
柳の花　一昊
柳の花　風流
柳の花　雄岩
柳の花　桃宝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

畑中の桔つくり井の桔
くさ中のくさ〳〵おく草かり 山路
中初ハ岩そこの畑と山の家 光林

桔

公の桔みつ〳〵白桔 二桔
咲初めよりまの上地の桔 芹舎
桔こと帰〳〵彩の桔 白路
義桔条も桔桔も一桔子 世南
咲初て花とゝ中さめ桔 内聾
串まさん宮てゆて義桔 素信
ゆられハるふれハ〳〵ぬ桔 夕竟
桔さて〳〵花たつ〳〵き桔 風敲
浪一生酒屋の花と桔 未木
ゆとゝ〳〵朱〳〵ら薄よる桔 一々
一生〳〵中〳〵なる中赤桔 水仆
幹られハ二本とゝつる義桔 蓼孔
桔の下ゝゝ中川竹〳〵き桔 寄酒

丘〳〵ハ人てめ桔中れの上 昂を
義〳〵義もかつめ桔 光林

猫恋

人も接ぬ恋ゆゝ猫の妻 芹舎
〳〵ゆ〳〵井角ゆんぬ猫の妻 桔通
桔出中耳〳〵れこの妻 与池
猫の恋一桔浮ぬ中〳〵恋 内聾
ゆゝ〳〵ゝ中ゆ〳〵ゆ猫 犯〳〵
京の桔〳〵て落〳〵猫の恋 風敲
〳〵ゆて一桔〳〵ぬゝの猫 未木
ゆ〳〵出て〳〵ゆて出られ猫の恋 素信
桔ハ恋ゆ〳〵ゝゝも〳〵猫の恋 林夢
猫の恋ゆ素〳〵れ恋ゆ〳〵 蓼孔
猫の恋〳〵〳〵の出る中ゆ落て 浪為
松井の庭〳〵出て猫の恋 寄酒
まゝ中のか義川義〳〵猫の恋 昂を
酒〳〵舟ゆて〳〵ゆ中ゆ〳〵乃恋 北海

荒磯を氣取りて猫の魚　北其
角ぬもたる陸奥とて猫の魚　光其

白魚

白魚や遠せる鉢も春のうち　日野
生て幾年の貝とり白新　寄洛
又こぼれ入て白魚とりしいろ　陸奥
白魚の小さい骨も日新　風紅
一匹ゝ先白魚の跳もうれ　巻扎
白魚ゝ先ゝかゝ屋敷ゝ　由楚
百洗の白魚きゆるかうとゝ　素信
白魚の身ゝ見てきえる　士朗
白魚のまゝ蛾ゝ旅ゝ　芳金
白魚や水のつゝ　巻扇
于鯛ゝ白魚一つかゝしいろ　杜鵑

蛍

蛍とて蛍ゝたゝる子　素信
蛍や行ゝて蛍ゝも加茂川　休夜
蛍や宵ゝ蛍ゝ　寄洛
蛍や行ゝ蛍ゝ　朱木
蛍の子ゝ小ゝ蛍ゝ　徒子
蛍の小ゝ蛍ゝ　百氣
蛍ゝ川ゝ水　たゝあ
蛍や朱ゝ蛍ゝ日の光ゝ　可丈
あゝ蛍ゝ蛍ゝ蛍ゝ　吐屑
蛍ゝ蛍ゝ蛍ゝ　雀拙
蛍ゝ蛍ゝ蛍ゝ　陸奥
蛍ゝ蛍ゝ蛍ゝ　左樣
蛍ゝ二ゝ二ゝ蛍ゝ　巻扎
蛍の蛍ゝ蛍ゝ　京地
蛍ゝ一ゝ蛍ゝ　一句
蛍ゝ川の人ゝ遠寺の中　白路
蛍ゝ蛍ゝ蛍ゝ　懐兄
蛍ゝ蛍ゝ蛍ゝ　風紅
余ゝ蛍ゝ蛍ゝ蛍ゝ　ゝ紅

上へかゝる中方のゆゝ仏
殘烟や海の上を初しくれ　光林

舟

江のうへや夕舟もうゝ　牧　寄附
こゝかれ行舟へ出る　長き
舟うゝ測うゝ月出る　杜鵑
舟うゝの入るや月出の　浩雲
舟で流る入れば磯の音　光林

鵜

おゝ鵜の鮎のうへ　切　行芝
夕月や鵜のうゝ　切　冢文
うゝ出て舟を照す　切舟　万尼
月もまゝ人もまゝ　切舟　京地
めれ蓑を片手に　切　光林

鈴

鈴の音の流れうゝ　内楚
鈴のうゝ　冢文

鈴や月の流れ　鈴や海の流れ　京信
月の秋乃ゝ　なる鈴小鳥　寄附

海苔

乃ゝの海苔の糸　切　林芳
海苔のうへ　九起
乃ゝの海の掃　京信
きゝ見の伸　乙良
秋の海苔　行芝
海苔の味　也楚
乃ゝの海苔　行
逸辺の海苔　長き
海苔の海苔　浩雲
海苔の海苔　寄附

二月

うの鉢の二月　二月　孰然
月や流　掃や海　冢文

めぐる物　人の下乃植本麦　孔月
二月　花ゆゑ　柳芳野山　与池
ゆゑ　春て　数さ　郭公　二月　碎紅
植本　花の　ゆゑ　たゆ
て乃　時ゆ　なる　面　ゆる　二月　与高

幾月

幾月　風　山　ゆ　大柳
谷　河の　龍　ゆ　柳　幾月　奇陽
り　ゆの　ゆ　ゆ　ゆ　幾月　蓋机
柳　ゆ　義　会　乃　幾月　世南
面　れの　始　孫　ゆ　て　幾月　杜鵑
綱代木の　家　ゆ　幾月　素信
一　ゆ　須　ゆ　ゆ　幾月　性子
ゆ　な　ゆ　ゆ　ゆ　乃　山
本の　ゆ　ゆ　ゆ　幾月　中楚
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　て　幾月　松蔭
時　一　ゆ　て　通　ゆ　幾月　柳俊

去　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　幾月　艾山
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　幾月　光林

春月

山　山　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　去の月　鶯紅
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　去の月　奇陽
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　去の月　碎紅
植　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　去の月　素屋
住　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　去の月　比松
行　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　去の月　禾木
出　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　去の月　由楚
舟　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　去の月　性子
人　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　去の月　紅心
柵　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　去の月　世南
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　去の月　乙良
門　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　去の月　素信
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　去の月　蓋机
見　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　去の月　義接

春夜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

初瀬やまさくら時の雪 長谷
初もやさてかをてを上中 風地

初梅

元亨のおん行けうの梅 奇阿
手枕の二ねるうくいの梅 影左
さて来て伝向梅や初梅 沙路
後行さう人のよさる初梅 素信
咲くき和歌をつて初さて 京池
後ろ行きの笠やみ梅 住吉
日のさて給まやもさや初梅 雁拍
月年まさ手でいさう〳〵初梅 浪角
元郎さも余のまさ方〳〵初梅 京良
月ちさ人おむ家さ和初梅 蓼扒
まさひかさ上なまれ初さて 方長
日と知て咲さんさもさん梅 西后
蓮はむ人分ちさ初はて 坊茶
わさもんはうもあ和初梅 碎紫

いさしし後初ちさ和初梅 内山
立向さ人ちさ日まは後や初梅 光林

五梅

五梅よ知さとるり和花 紙子
五梅やよのさち学紙れ和 月屋
五梅ノ手ちまさ〳〵ちさ和 雁拍
五梅や古江郎の島中 逸阿
五梅や日さ〳〵を祝く実の和 大梅
五梅や門の走〳〵や二の巫女 寄阿
五梅の枝乃る月も梅ば〳〵 素屋
五梅や伝ちノ月まさ和逸さ 蓼扒
五梅やよの門郎ちか茂のさ 鼎き

梅木

まさ〳〵伝〳〵りの人梅木 寄阿
梅木さと月ノ門ノ梅ば小さ 鼎き
小逸は梅木月さ人の蜂さ盆 紅山
よ別さちノ〳〵ちか今梅梅 碎紫

[illegible]

苗代

苗代は山もほそくなめくなれば　赤信
苗代を二反もまくもやるせなし　風也
苗代や村雨さのく松の下　中堂
苗代は都も遠流くれるなれば一ゑ
苗代よくとゆみ中とは那ち　古池
苗代に移てくく紀小家ば　雅峡
苗代やをくかくてをけくれば　杉基
苗代や新ほくける松の木下　保芝

菜花

菜の花のわやよ山くて空ろう　世有
菜の花のとくるやゆ志賀の波　逸路

菜の花や[illegible]　并金
菜乃花は背園なる雲ば　百美
垣越しなの花ゆ　赤信
菜の花は[illegible]　成美
なの花やまてもよれば　未木
菜乃花とけくつるや　蕪村
なの花やなの日なるる　其芳
菜の花も夫日なるる　う大
菜の花乃花ゆ　中堂
菜乃花もまくくは　梅通
菜の花乃ゆ深る　古池
菜乃花の白く　松ゝ
菜の花ゆうふと　赤信
菜乃花の米松まハ　光林

蕨

伸くなるとくく　雅峡
[illegible]　赤信

土をもて宮こに二すの殿を　八重
殿をる山をこゆる波のうれ　波為
ふれるつゝふまつ人真の殿を　伎雯
持たく土さけ殿くるしを　廿山
把ひるも殿〳〵をつゝしを　中楚
よ殿手芸と拾よして宝の上　鼎き

蒲ゑ英

山路ハなゝしんもりのこゝろ　素信
たゝりを茅より堤乃道帝　百表
まゝまを一路をゆる宝を豊　乙二
たゝりを畑も川乃峨のゝち　桃宝
しゝまりよ古姓りちゝ社を　碓岩

焼野ゑ山焼

野の野〳〵野史のゝ野を　碓岩
ゑ華湯て無しの山も焼を亀　水竹
焼芸を野ゑハ又〳〵るのゝ　井眉
野と焼〳〵ちゝと焼のゝ　中楚

山焼〳〵根ハ春ふゝゝ沈の結る　左あ
山焼や玄の一根の花りみち　素沈
山焼の沈ゝよゝふまゝ乃を　乃山
呼を焼野の波乃ゑゝり　杜鵑
山焼のゝハ沈乃のゝゝふ　白島
舟山ゝ敷を時て春ゝ焼表　義柱
山焼を〳〵の志かゝも玄正面　未木
山焼の焼を沈る小舟れ　伎雯
山焼を芸ゝふゝまゝて　白池

乙ゑる

日ゝ世ハ伸ゝ陰芸を芸　廿山
ゝをゝのゝりゝまゝふゝ　世南
ゑあ中の表を芸ゝ玄ふ　素信
英ゝゝゝゝ玄ゝ池の波　中楚
りゝゝゝゝ結よ休む乙ゑ　林鶯
ゝゝりよ歩て船ゝ英を　白池
英を芸ゝよゝく引ゝて　西后

[illegible]

緒子

[illegible]

[illegible]

帰雁

[illegible]

[illegible]

子雀

[illegible]

鮭

[illegible]

[illegible]れ〳〵一ツ陸乃時[illegible]く　大梅
乃遠の[illegible]れそ[illegible]や[illegible]ん　月屋
屋の[illegible]れて余の田く移る陸ぞ　水竹
[illegible]陸清ま[illegible]く[illegible]は[illegible]乃　後藤
毛時より列[illegible]て[illegible]る[illegible]ん　佐[illegible]
池屋の木乃[illegible]ち[illegible]め陸[illegible]る　又外
二ツ[illegible]て[illegible]る陸[illegible]　後嗣
[illegible]の[illegible]る[illegible]ふ陸　寺浦
時止て丁ちんるひ[illegible]ん　鼎を
[illegible]ん[illegible]より陸の[illegible]乃中　梅俊
[illegible]茂[illegible]月の間[illegible]ん初陸　光林

鮎

陸[illegible]やそよ乃時[illegible]の神より入　鼎を
陸[illegible]ん[illegible]ん[illegible]　一林　寺浦
め[illegible]陸の[illegible]分[illegible]移る[illegible]　赤信
陸の[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]　松清
浦ん陸と若子もつひ[illegible]　世古

陸て[illegible]木が[illegible]れて陸の[illegible]ん　白路
面[illegible]ん陸[illegible]ん[illegible]ん　後[illegible]
太[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん小陸ん　末木
[illegible]陸[illegible]ん[illegible]ん[illegible]　有[illegible]
陸[illegible]ん伸て[illegible]ん[illegible]ん　[illegible]
陸陸[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん　乃山
[illegible]て一畑[illegible]ん[illegible]　由[illegible]
移陸[illegible]ん畑乃[illegible]ん　梅園
[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん陸の陸　[illegible]
[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん　廿山
[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん　後嗣
浦[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]　後[illegible]

田穂

[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん　石[illegible]
時[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]　浦芝
[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]　士[illegible]
[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん　末木

之時の様子を詠ずるなり　素信

三月

三月中ばかりしてうぐひす　大梅
花に別て樓をさるやうしなり　京池

雛

情い様のうつくしきつくり物　たゝみ
持て後に見つゝやうも雛の前　景を
雛のうるとて出て大きに一間のうち　切花
景色に雛を飾つゝ焼く那　蓋亡
松をうつし焼のそゝぎよ雛うち　大梅
大指も雛をうれ時しれ　風雅
田の神をえてやうる雛うる　京池
紙雛の袋ふゝ〜かれ今　素信
様さて一日ゆゝ雛の桃　素流
酔て持ち物に紀ハ　井芳
雛の雛丹佐雛をまいらう　護梅
氣神八人ちな〜雛市　一色

桃者さゝ雛の彩つよ　椿美
植必ちとゝ雛乃焼う那　光林

汐干

雛の名をあをはて汐干　素信
松のあらふの汐干もあへ　蓋亡
月の入る穴ちれ汐干　素流
大坂の造も明くめ汐干　淡雲
ちとの月投てうる汐干　可兆
焼ちさ松ちまゝうる汐干　保芝
ふ貴のめゝあ白雪汐干　逸流
穴ちたちたれ汐干　京池
一日ちてい入日雪汐干　影を

志賀

葉の花乃様ちあまる　大梅
作りて持ち咲やワル　風雅
仮ふきの尾ち井雪　西石
焼焼の名持ちて　梅風

小網のくに上て浦安や　玄の雪　雄嶽

ふまぬまもなきの世なれも知れぬ一ぐさ

相の海のうをとかくて立まぎれ　素屋

暮春

まさてしむ日と一日乃小雨　鼎

わさをみの花さてそ花の子　素信

わさをやあらそてそは部屋　禾木

わさをや只春てみるもつくふき　芹舎

猛年の四五日やさて雪の去　京池

わさをやそとはしさる門乃口　寿阪

わさをハ我の下ようかくれ久　蕉扒

わさをのみくに底さ小舟　世南

日のさる波ようなくさの雪　雄嶽

口ゑ梅のさるみさのけ春　十六　清く

わさをの明ようまるめる陸　素屋

わさをのさ新世くあ今ミ　等志

紙ようさかけ菜の木畑一ぐ

わさをや以一くんの沖の時　乃山

わさをもはちをさるを玉　雄物

わさをのさもあ今ふ大河　光林

桃花

毋あの色ようしをを桃の面　京池

波ようはの今あ者や桃乃花　渡部

桃の色落てこそ撫るよ　大梅

日くしの雨ようまの雪　一ぐ

ようあ雨の時てを石の桃の色　蕉扒

はくを桂の赤性新れを桃の花　素信

桃の色間乃気の志のふ情毋　寄阪

紙はようてを人をくをの色　芹舎

る恋ふをの色をやとく畑　素屋

下部ようを仲ゑ葉ちふ桃の色　光林

花桜

そ耳ようを人をくをの桜の色　素信

雨をのをあをさて乾桜ふ　仝

[illegible]　素屋
[illegible]　仝
[illegible]　松清
[illegible]　仝
[illegible]　仝
[illegible]　月
[illegible]　仝
[illegible]　九起
[illegible]　仝
[illegible]　志法
[illegible]　仝
[illegible]　雅嶺

[illegible]　仝
[illegible]　仝
[illegible]　月屋
[illegible]　仝
[illegible]　月屋
[illegible]　仝
[illegible]　白路
[illegible]　仝
[illegible]　義雅
[illegible]　仝
[illegible]　義比
[illegible]　仝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花の咲き乱れたる　乙良
かすみたなびくはるの花盛り　なるみ
起きれば春の向ふ山の百　紅
春よりて鶯の花の小雪哉　未木
陸奥の舟出の浦の百　陸奥
花の枝入日の影の霞かな　沙路
春の花みるもうれしき花盛り　有言
月代もかつらいやし花の上　京戸
うぐひすの出しより不花の奥　小竹
花の中に鶴を百日のうち　重百
花毎に月よりなびく笠山　芝帛
鶯は春もこむ山さくら　京魚
春の山の花の宮　光林
欲しく人の花ぞ捨う那　仝

四月

人人の春の四月の長日　義拾
ゆるゆると春の四月の岩山　義記
春の日の長き春の四月　京信
春の日の長き春の四月　沙路
春の日の長き春の四月　松情
春の日の長き春の四月　嘆老
春の日の長き春の四月　松世
春の日の長き春の四月　乃山
春の日の長き春の四月　学南
春の日の長き春の四月　方美

雑夜

雑部の夜の長き春の夜　京信
雑部の夜の明け方の刻　陸奥
雑部の夜の明け方の刻　未木
雑部の夜の明け方の刻　義記

月やとなりの家にかしつかの木　最き
経和尚もきのふの山の泉　芹舎
うゑ木の咲るなつかしき時花　梅国
経和と遅ふ人地之滅の高　長桂
時雨さてもけハしの中もし　素尾
経和尚はて鈴くとも川　色浴
経和や人なつかしき月の兵　水厂
又る春は宮和尚の面もき　一々
参そろると経和の小笠ゑ　光林

更衣　自給

網戸のあるとくしたる衣人　素信
奉公のあるはたらし　李海
経そ入日又うけてそ衣う　京池
者は物の人乃之居や　田楽
棟上の拵宮は中そろる人　禾木
冥も不ふ　丈山
弧の和は拵ふ上や　京邸

振舞や居たくしの衣人　陸戦
芸れ磯まるの中ゑ衣う人　絃子
ちそけは拵の時日や　芭蕉
ふはちるはなくて衣人　風雅
隙の菜乃くふ又ふく　素信
ふそくしゑてちわふ経ふ　陰舟
和ふ先ふ先経ふ移ふ亀　田楽
松苗の紀ふる乃の経ふ和　世南
紙かふはや系列てふ経　懐見
後れて出る只今や和行も　林芳
絲本の花又付ふふふ経　大あ
下ふそ系ふ二世宝とかる後ふ　月屋
物後河原の力ふふ乃亀　禾木
後ふて基ふふや伯者　京池
後ふふのときまるかある後ふ　素信
門ふる後も紀ふふ　一々
井ふ和ふ人の見ふふる物後　芹舎

敷幔

牡丹

海山乃糸そとかゝめ牡丹を　まつ清
天ぢの牡丹大ひく生まつそ　十二月　牡丹六
生殺ふるめ牡丹さ飛もかゝ　林芳
巻きそて咲ん牡丹を　水仙
雪の枝乃出そためさん白牡丹　芳令
そうゝ花りさ白わてま　松濤
一重の咲を分てゝ牡丹を　素屋
むさくさ生領ふのわてを　万石
正面ふかと日のさん牡丹を　未木
芳と芳の逆ロのさな牡丹を　紙柱
寒山のおくり花下るわてゝ　西月
ゝかゝと枝沿のまゝ牡丹を　風旅
独そゝよ入日カ〻す牡丹ふ　世主
二ゝ序芳て咲れぬわてん　芳赤
おゝも禁さ隠れ白牡丹　光林

芳子花

竹とそて特おゝて　牡丹　赤信

牡丹ゝゝ　素扎
小体のかゝよも　芳鼎
抱ゝ花　世主
枝の沿る候の芳　松通
造沙ゝ　為山
ゝ沿て咲かゝ　内華
通沿ゝ雪ゝ　逸信
ゝゝ紅ゝ沿の花や芳子花　万樵
伐てゝ　京池
花ゝゝ芳　牡丹
牡丹ふ　最芳
ゝ沿の　ゝ人
芳ゝ人て沿わ　芳令
夫ふの禁ふ　林芳
まかゝ抱ゝ　廿山
ゝ牡ゝ　深芝
抱て切ゝ　万石
花ゝ芳　讓松

伐うゑし花まつぬ杜若　月屋
あるて春さはる日咲ぬ杜若　雪窓
杜若てて遠なる法ゑ一ゑ
若さ花のあるし遠り池　素堂
向ちゑ星の左ゑうゑつゑ　徒ゑ
いとの陰　ゆゑし杜若　光林

芥子花

咲く八ゑを迎ゑ春々の蕊　素信
芥子ゑの人目ゑ一日ゑ門の物　素堂
一庭入ゑれ八拾ゑぬゑれ花　義雄
蝶ゑゑゑゑ出ゑれ色芥ゑ蕊　蕉扎
ゑ咲ゑ蝶務ゑ蕊ぬ座のに　京池
門ゑゑゑゑて宇ゑ地やゑの花　梅通
ゑゑの一ゑ芥ゑ芥ゑ一ゑけ　沙路
芥ゑ蝶て咲ゑれぬるやゑう　林巷
蝶ぬるのゑやゑゑゑゑ上　素屋
伐ゑゑ時ゑ巷ゑや一庭　宮前

一ゑ　大梅
ゑ　風敬
芥ゑ　朱木
ゑ山

芥子

陰ゑゑの巷ゑれぬ巷　而石
ゑと又ゑ海ゑの巷ぬ　九起
咲ゑ一ゑ蝶ゑの巷ぬ　蕉扎
ゑれぬ山の巷ゑ巷　性子
巷ゑゑの巷ゑの巷ぬ　朱芳
地陰ゑ巷ゑの法ゑ巷　廿人山
入れの乳ゑゑ勅ゑ巷　大梅
伊ゑゑ名藤ゑ巷ぬ　由楚
梅ゑ陰ゑれゑよゑ巷　并金
ぬ巷ゑ蝶ゑゑ舟　風敬
川陰ゑ巷ゑゑ巷ぬ　松茶

知花

[illegible]

筍

[illegible]

竿の根ともそれハ竹ともそ　中整
井のそゝ一はゝそゝまおのゝ　巫山
竿や葵ハよつゝ竹さまる　好茎
竿やゝそれさよゝ一うゝさ　京池
井のゝやゝ三ハ陸ておるもゝ　逸活
竿とゝ孝ゝゝゝゝ佐　乙良
井のゝ乃二把ゝゝゝ魚の居　可樹

夏本立

ゝゝかる物と正面ゝ夏本立　陽新
生ゝゝ三ゝゝ金ゝ夏本立　新令
陽ゝゝゝ物ゝ行ゝ夏本立　寿活
新ゝゝゝ井ゝゝ夏本立　京池
日のゝゝゝ定ゝ夏本立　万義
陽世ゝゝ陽ゝゝ夏本立　赤信
秋一本ゝ間ゝゝ夏本立　光林

子親

時ゝ三月ゝゝゝ陽新

時ゝ赤信
古樹ゝ社の本源　新久
ゝゝ物ゝ活ゝ　寿活
杜宇ゝゝ夏ゝ画ゝ　寿活
切ゝ行ゝの物ゝ時ゝ　たゝめ
ゝゝ山ハ誘ゝ　月居
行ゝ雲ゝ者の迎ゝ　有記
山ゝの人ゝ行ゝ　樹国
人の海ゝゝ新ゝ　砥山
物おのゝゝ親　万居
茶中ゝ活ゝて杜宇　九起
新ゝゝ一ゝゝ　桃宝
定ゝの小ゝ活ゝ　井令
名別ゝ物ゝ子親　赤信
ゝ坂ゝ宵ゝ杜宇　う大
山ゝゝ丹波ゝ新ゝ　大樹
時ゝ川ゝ物ゝ　京池

[illegible]

杜宇鳴く止む海乃たくひ

鳴くと人数のはきりなり時る　京の

歸る雁なりて日々に鳴きし　切なさ

[illegible]と月の時る　眉[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細代ら竹と笠もれいふ蓋　義拾
そなれてとやし笠ハちゝ側　素信
浜れすゝ笠ちゝ不舟の杉　光林

鮫

板よ迄て舟の抽哥ハ月報　鼎
非枝の寄も寄てる板やゝ　素信
旅人の笠て扨ハ板きゝ　蒸机
板ゝゝも吐しゝ寄旅矣　月庵
松原のおゝて白板やゝ　素信
川原よ浜ゝ燒る板きゝ　雲南
伽嶮き森忘の中の板やゝ　砺山
久ゝも先年の三日ゝて板きゝ　芳金
絡ゝゝ今ゝ板のり泉　深美
日の中よ板の中ゝみ杉郷　京池
板の中ゝ壹ち一人ゝ三ゝ　好茗
三の板市礼の下乃かゝ　素信
寄のゝれハ焼お板ゝ州　逸浩

板杉や国ゝれハ迄ゝふ　蒸机
旅ゝ嶮て休ゝき板やゝ　禾木
白ゝの中ゝ寄ゝ板きゝ　素信
ゝの板乃松ゝゝ直ゝゝ　渡角
糸寄ゝまれゝゝもん板　艾山
雨他ら板も用新のゝゝ　世南
寄れを三の板一つゝゝ　林芳
寄の板乃苔ハ次寄ゝ遊れ亀　由楚
ゝれゝゝ一本ゝて板きゝ　光林

鯨鮫

ゝあゝの寄れゝ鯨舟ゝ　鼎
鯨の舟ハのゝゝ寄ゝ　世南
ハ嶮てゝゝゝ大ゝ鯨紐ゝ　緑紅
舟ゝゝゝゝゝゝ鯨ゝ　素信
寄れきく鯨の寄ゝ原ゝ月報　家文
嶮ハゝ石山佐乃鯨山ゝ　月庵
次寄ゝ月の舟乃鯨ゝゝ　ハ大

五月

大竹よ人みつ〳〵五てく　赤信
花おりて仏に奉る　大梅
目の中ゝ三月の今年〳〵　万義
招鶴くゝふゝよの庵ゝ　梅通
旅人の書れてゝる五月ゝ　赤浪
赤樫の二〳〵ゝ五てく　光林

端午　付懐粽

若蒲の目みのんをけうゝ　赤信
仏のゝと世ゝ五日ゝ　世南

仏のまゝ懐の上乃きゝ　菱扎
表の地のゝゝ之場よかゝれ　學敬
ゝ花ゝとゝゝてかゝ粽ゝ　景を
ゝ粽ゝ琴の音を新さ懐　平山
懐吹や魚市きわゝ人の山　夏梅
ゝゝ棟や桃よ仏ゝ粽ゝ　東池
ゝゝゝゝゝゝゝゝ粽　由聖
粽かゝゝゝゝゝ笹粽　赤信
粉表ゝの国ゝ仏ゝ笹粽　一々
ゝ入ゝ仏ゝ粽　逸浩

五月雨　付五月晴　五月雪

うつゝ笑收ゝ五月ゝ　浅雙
やゝゝゝの五月ゝ　逸浩
五月の雪乃内ゝ　由聖
五月の人ゝ五月ゝ　一々
五月の仏ゝ　梅通
五月ゝ仏ゝぬゝ　松涛

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

芍薬花

[illegible]

百合花

[illegible]

接子

[illegible]

接子は昌はくさきくさの山　風流
接子の公かまくらにほふあれ　艾山
接子や葉ちくとあるなれの花の粧　鼎
そこれ打もなし　接子の々我き　舟角
接子や加ちくれ苔よ蒼　牧　雲雨
接子やさうしぬやおとそれのろ　光林

瓜花　食瓜

舟一日玉産の瓜をすくくぶ　機見
れ家は昭ちくく瓜やめめる　梅園
井の中家してて瓜の雑ちく　京池
面乾くるやてるれの瓜苏子　石后
糸中や目ひちかよ冷くく瓜　宝雪
え咲は接もさくく瓜の花　雲雨
初瓜やちくてくく接も花考う　素信
時うよ瓜の匂しや枕りを　一句
鋼ハやき瓜ハ冷くて豆腐　素信
実と持てかくふ夢や瓜の花　鼎

初咲ハひれ畑ちくく瓜の花　光林

苏子

苏子の見とりぬくうを初苏子　素信
見なくて考ちくく初苏子　砂山
ニひくれるく苏瓜ひく初ふもひ　佐久
撰ちくくうくうやもくひ麦　石后
一日とひはくの味や初ふもひ　何丸
ちくくく接ちくく初苏子　大梅

蕎竹

ちの年の蕎ちくく竹の蕎ちく　蕎机
杜中千一逸ひくくく竹　松苗
ちくくく新れ蕎麦やくく竹　九起
ちの年やくくく蕎ちくく　蕎陵
ちの年や年ちくおくる山の畑　井を
くくくく接ちくく竹　素信
ちの年や新ちくく逸ちくく接ちくく　内梅
新豆の咲てちひぬくく竹　芳金

[illegible]

鰐

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時とゝ和歌の道にも後の京　寄河
取て仰て月ぼつゝ和歌まなび　赤信
牡丹の子こゝ中のゝ和歌子が　逸河
戸口とゝ人ゝ人なれぬ和歌子が　光林

牡丹子自辻ゝ

物ごゝふ牡丹子ゝつて二日ゝる　雪庵
万出て川ゝゝち和辻ゝ　白路
牡丹すまゝゆゝたゝゝゝ　赤信
牡丹ゝもゝゝゝゝゝゝ　芹舎
牡丹やゝゝ物ゝゝ　諧和
牡丹子ゝゝゝゝゝゝ　牡丹
牡丹ゝゝゝゝゝゝ　松濤
牡丹や人のゝゝ芳の風　寄河
牡丹和紀の国赤風のゝゝ時　世青

六月

六月和行ゝのゝゝゝゝゝ　巻軒
六月ゝゝゝゝゝ鳥の山ゝり　ゝ

六月和ゝ法ゝ水の　寄河
ゝ月の程ゝゝゝ　白梅
六月和ゝのまゝ月ゝ　光林

氷室

氷室ゝ法ゝ氷室の橋ゝ　護和
暑ゝ日ゝゝゝ我ゝ氷室ゝ　赤信
味ゝゝゝゝゝゝゝ　逸河
茗荷延ゝて氷室と暑ゝ　乃山
我ゝ物ゝゝゝゝ氷室　光林

暑

暑ゝ日和行ゝゝ　巻軒
ゝゝ日和ゝ陸ゝ　一ゝ
ゝゝ物と雲ゝゝ　乙ゝ
赤ゝれゝゝ井ゝ　ゝ
暑ゝ日和ゝゝ　赤信
むゝ部ゝゝの日ゝと　佐ゝ
大ゝ乃宮ゝ　歳和

日の出るを見るに海の光りが
そるもとくせの日くの見るさうな
物の見るなり自然見るが
はの見るなりて海に見るが
涼

涼きと初て手涼しく洲あらち
そなぶる吹つ吹つしめりまること一
涼風手拭をはらり吹うつ
掃切る涼おとを手柴の手
あのと思ふも白くもむ新
風もうくよりをもむ打とや涼舟
物の中るまをとをとを涼が
稲ばうつも涼手をのもと
涼とも手今をあるる時の夜
涼風の物と移るれ涼くが
涼ふも手性るるもなくうる信
雨のまの乃移へば涼しき
機見

物さへ涼しよ拾屋しくが
みるとき人きれ涼手山の上
川枝よりくく涼手ぬれしる
涼枝の涼手物のるうて
松涼手の屋るの上
見るを川ふ如へ涼くが
寒見と拾くよ房く涼くが
洲多ふ見るて涼貸生涼
ふる枝よ涼手出歩く亀
涼さよ麻の外て門田が
涼ふも手枝へ涼くて
青岸

五月一日こと
涼くの涼月の涼手まを岸
月屋
岸を
涼

夏月

[illegible]

雲峰

[illegible]

白雨

[illegible]

夕立てもこゝはやてこと丘の牛　拙国
白雨や陸と水とのはく機の反　京水
釣舟の名残り近く夕涼　杜琴
夕立てえんけてこゝぬ舟遊　逸淫
白雨や午時分今人舟上り　乃山
草の葉に海てらくれる雲　素信
峰雲に雲とまるる雲　光林

清水

涼みとて人の通る陰　晋帆
池えてはれる入あるる一雨　素信
表門に立る雲や門清れ　機見
近てゐる人に汲きまれる水　乙良
出雲の上に汲きぬはれる水　京池
ふゝしの山田くもり清れる　護拙
五月雨もまたくるはれる　并金
社屋の陰にはくれる　砂山
扨こゝ涼る拙に芝清れ　鼎也

夫稲の苗ふる雨に芝清れ　松清
早分て清まるのうるはれる　雪鼎
そゝまる蛾しきれる枝のはれる　絵子
見往は雲さも雲のはれる水　風流
汲もぬ人の立ぬ芝清れ水　山楽
山はれ水清るあるる道のはれ　素信
六月の日氣ふれる水　光林

蓮

接の向おもしろ蓮の花　たゝ
川そこの働きこゝろ蓮の茎　大梅
日の出てぬんてもれ蓮の茎　素信
こゝの蓮花白ひたたこゝろ　由楽
寒くつゝたゝ山雲水の蓮　素原
出てれ茎に流きこゝろ蓮迫　万石
鶴さや蓮こゝ出てく蓮迫　紅葉
牛ゝを出て陰ゝく蓮の花　大梅
蓮の広月出れ枝も陰く　絵子

[illegible]

夕顔

[illegible]

夕顔

[illegible]

[illegible]

夕顔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

史取虫

[illegible]

土用丁

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋之部

七月

[illegible]

初秋

[illegible]

初秋やはつよはきくて出ぬらん　[illegible]

[illegible]

初秋の雨は花つくるなり　[illegible]

初秋やはつよはてはるるの雲　白路

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七夕

七夕や限りある秋の始めとたのめ　俳諧
七夕や大義が拙の下ごころ　俳諧
七夕や用たつる実乃人　以英
七夕や二世一つとまれうと　後鳥
七夕や海てハ光ねる者一ツ　風流
秋中ゆも又信ひくる星の宵　素信
宵ゝハ花もなりれ星と有　東池
只一秋星ハなるふとまれ者　東池
行とゝ人の指ゆる星こゝ　由聖
海ゝ星の上も秋海棠　桑扎
あ拙我ゆ継今々ゝ星の糸　逸信
星の秋や河今ゝ下の後行　紅仁

秋

網はたく笠ゝ我ゝて秋　月桂
四ツの八ゝ一つ秋の秋　懐見
寄る秋の人ゝ山ゝ牛蛙　光林
余ゝ忘ゝ者ゝ秋ゝ牛の宵　東池

七夕

七夕や限りある秋の始めとたのめ　俳諧
七夕や大義が拙の下ごころ　俳諧
七夕や用たつる実乃人　以英
七夕や二世一つとまれうと　後鳥
七夕や海てハ光ねる者一ツ　風流
秋中ゆも又信ひくる星の宵　素信
宵ゝハ花もなりれ星と有　東池
只一秋星ハなるふとまれ者　東池
行とゝ人の指ゆる星こゝ　由聖
海ゝ星の上も秋海棠　桑扎
あ拙我ゆ継今々ゝ星の糸　逸信
星の秋や河今ゝ下の後行　紅仁
為拙や行ゝ今ゝ星迄　義拙
七夕やゝ〳〵秋ゝ牛の新　徳拙
七夕や人の寄ゝ牛ゝ梯子先　影き
海ゝ星ゝ上ゝ星ゝ星ゝ　東京
七夕や中ゝ今の月ゝ星ゝ　乃信
星の秋やゝ今ゝ海ゝ海ゝ　光林

天川

附海ゝ銀ゝ中ゝ天の川　素信
青の今ゝ月ハ海ゝ乃川　影き
秋海ゝ附ゝ今ゝ天の川　宝風
賀茂川の上ゝ都乃天の川　桑扎
海ゝ今ゝ思ハ海ゝ天の川　由聖
山星ハ海の今ゝ吹ゝ乃川　可大
月夜ゝ流れ海ゝ中ゝ天の川　玉山
天の川ゝ流ゝ海ゝ乃川　素信
天の人ゝ海ゝ今ゝ乃ゝ今ゝ　以英
後ゝ今ゝ星の星ゝ中ゝ天の川　紅仁

[illegible]　孫山
[illegible]　大伴
[illegible]　丈夫
[illegible]　源頼政
[illegible]　世尊
[illegible]　後拾
[illegible]　一条
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]

初岸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

信濃路やうつも志きしまの道の上　左あ
稲妻さへ小松の根のうもれ　義経
いかなまを松のまろ寝の夢覚て　志信
稲妻や足柴のうつる小海道　素堂
稲妻やうつりて消る竹しぶ　光琳

霧

霧の中に星うつりて消る竹の秋　左池
霧の中に出て星を見る月の秋　風俗
橋の川霧は桂の中の秋　素堂
橋の霧出さまの月の秋　鼎雪
星と霧の行れぬ月の秋　志信
有余る雨は霧の月の秋　杜若
白雲や一日暮て入る路の秋　呂風
笠中に人の去て霧の朝　芦舟
霧とともに立ぬる朝の秋　たゑ
時雨れて行くさはし恒の秋　秋木
白くよそぐ霧の秋　世有

吹出し弦や全く霧の玉　杜若
霧れて立て立て立る霧の玉　砧山
夕と霧の乃よ行る中霧の玉　内楽
白雲や入江を出て霧の秋　伎雲
時雨の尾上を霧れて秋の雲　素扎
霧や雨や限りなく霧の秋　祖仁
舟の折乃丘も利も霧の雲　光琳

霧の

時雨と霧を雲の通る中の東山　絃子
雲のあて霧時雨や川せゝい一日　
時雨の降さ木と妙る霧の雲　伎雲
川を雲の島て行る口和ゑ　沙路
雲の沖尽り出る舟のあゝ　たゑ
橋古に門霧よ霧や橋の雲　世有
旅人の霧とさまゝ雲の中　志信
夕雲の押通て霧の風　左池
二重の霧霧とれて雲の行ゝ　素堂

秋風

馬ようう遠ちこ〜めく秋の風　素活
秋はやう更ぬ屋もれぬ浅乃宍　素信
艾子八日の夕ぐれ如〇て秋の風　素屋
秋はやう陰のくふれぬ稲畑　井令
ふかし〜二十四節を吹や秋の風　素机
片咲よおくれて佳き秋の風　東池
秋はやふ株川乃夜の声　世南
夕のうち吹本八俵〜秋の風　雄嶽
秋はやふかくうの夕暮〜　一之
清のる竹筒より吹や秋の風　室る
秋はのを伸ひて〜火口ふ　万義
かをうの日よ野八ふや秋の風　方義
小松ふる日八ふ〜ふ秋て秋のうせ　梅通

秋はの吹もつ〜ぬ喉弱ぶ　由雄
日陰ちをさ小石高ふ秋の風　祖仁

一葉

郭公やまちもさやう相一葉　室る
人ハまさ出ふきを相一葉　必山
伝初の家住なれて相一葉　俊舟
家相八二葉ふ〜ふ　風紙
葉て枝廣八一葉ふ高の相　鼎之
葉枝や一葉ふ高さ陰の葉　伐史
相一葉のそ〜ふ出ぬ金〜危　陽芝
ひ乃一葉ふて枝ふ日のあ〜る　大梅
そ〜ふ清〜ふ孫の一葉ぶ　世南
葉ふ八葉のなられと相一葉　由雄
相ふ〜小屋根ふ一葉地ふ二葉　休叟
家一葉ふふ出て志ハ〜者寺の　木木
吸ひ中のふてふ志ふ〜ふ一葉ぶ　徐子
葉舟の家ふて下ふ相一葉　芳冬

たゝかるとて平家の一族ども　素信
呼の坂にくれハ相一族　義経
狩衣ぬうて五月一日や相の苗　京池
相一日ぶくろ新うゝ蓬ゝ陰の屋　素信
五庫の出羽ぶくろ山一日哉　爲忠

朝顔

新月や絡て八重の葉門　鼎
新うゝ咲ハ下葉ゝ朱ゝ色　爲忠
蕣ゝ咲て五ゝ月ゝ木第　義経
新月や花と拾る地のまめり　仕方
新月の咲ハ日と中の蕣ゝ　逸信
新月のかゝの蕣ゝ潤ゝ　砂山
新月や一つ咲るゝ丹　素信
新月をゝ咲と今ゝ咲る様ゝ　讓和
新月の牛垣代ゝとあゝ　鼎
新月や八新かゝハゝ咲　素信
新月や先五月のゝ咲　爲仝

新月のまゝ咲やゝ日と新の弟　世南
新月乃蕣ゝ咲牛と咲接め　信雄
新月の一ゝ咲ゝ咲ゝ咲ゝ　方芳
新月やさゝ切て一ツ咲ゝ　信雄
新月や五つ咲て潤ゝ一ゝ　
新月の花ゝ咲ゝ咲ゝ咲ゝ　京池
ゝの新月咲や咲の上　雲帆
新月や医者の垣根ハ所の平　大梅
新月の垣ハゆゝ咲ゝ原の蕣　信雄
新月の潤ゝ垣ハ代ゝ　西山
二ツゝ新月咲ゝ咲ゝ　光林

女郎花

作山なん地ハきゝやゝ女ゝ郎　鼎
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　世南
枝ゝゝ立て切ゝ色ゝ　素仝
ゝゝ咲て野ゝ咲ゝ郎　素信
郎ゝる咲ゝ女ゝ郎ゝ花　大梅

おさゝぬ[illegible]や女郎花　東池
[illegible]女郎花　宣長
[illegible]女郎花　呂玉
[illegible]女郎花　水作
[illegible]女郎花　又外
[illegible]女郎花　由聖
[illegible]女郎花　梅通
[illegible]女郎花　俊為
夕月や[illegible]女郎花　廿山
[illegible]女郎花　護拙
[illegible]女郎花　素信
[illegible]　[illegible]
[illegible]女郎花　素信
[illegible]　[illegible]
[illegible]　一色
[illegible]　[illegible]
[illegible]女郎花　[illegible]
[illegible]　[illegible]

女郎花　[illegible]　光林

木槿

花ニアラズ[illegible]七ツの木槿ぞ　[illegible]
咲うひも茶畑の垣乃木槿ぞ　素信
花ゝゝつまゞゝ[illegible]木槿　迷信
[illegible]木槿の[illegible]　[illegible]
[illegible]木槿ぞ　[illegible]
時日の[illegible]て[illegible]木槿ぞ　素信
[illegible]木槿ぞ　素信
[illegible]木槿ぞ　由聖
[illegible]木槿ぞ　義拙

萩

[illegible]も[illegible]八萩七花七日　素信
[illegible]萩の[illegible]　[illegible]
[illegible]萩[illegible]　俊秋
[illegible]の[illegible]萩ぞ　[illegible]
[illegible]萩ぞ　[illegible]

[illegible]　逸淵
[illegible]　水牛
[illegible]　み山
[illegible]　万后
[illegible]　由楚
[illegible]　たゝあ
[illegible]　柳通
[illegible]　芳令
[illegible]　世南
[illegible]　清望
[illegible]　与池
[illegible]　一色
[illegible]　糸淵
[illegible]　氏万
[illegible]　杜鶯
[illegible]　風敬
[illegible]　素淵

[illegible]　大柳
[illegible]　万義
[illegible]　禾木
[illegible]　義抗
[illegible]　光林

萩

[illegible]　素淵
[illegible]　義抗
[illegible]　義抗
[illegible]　素信
[illegible]　俊面
[illegible]　風敬
[illegible]　光林

稔花

[illegible]　万后
[illegible]　陸芝
[illegible]　義抗

[illegible]　書陵
[illegible]　士元

庚辛

[illegible]　長孔
[illegible]　艾山
[illegible]　京池
[illegible]　風俗
[illegible]　陽至
[illegible]　禾木
[illegible]　たゝあ
[illegible]　性子
[illegible]　素信
[illegible]　月姉
[illegible]　由聖
[illegible]　而后
[illegible]　乃山
[illegible]　水牛

[illegible]　乃山
[illegible]　而后
[illegible]　素信
[illegible]　京都
[illegible]　世苗
[illegible]　たゝあ
[illegible]　素信
[illegible]　大梅
[illegible]　佳堂
[illegible]　山酌
[illegible]　長孔
[illegible]　風俗
[illegible]　京池
[illegible]　朱夏
[illegible]　書陵
[illegible]　義樣

竹花

[illegible]

虫

[illegible]

桔梗

[illegible]

鶉

鳴くさまたとへぬ鶉ぞ　乙良
拾る月鶉の声ハ行くよりも　一之
面なく籠の中や鶉哉　大梅
ほろ〳〵鳴くもつくあるつくつくも　鳴雄
入れの法おまはやかつくつく　素信
悪さの多ふ物て哀鶉　李池
そよの春よあとと言つる鶉ぞ　素信
ねそふハ枝るもあ〳〵鳴くつく　由聖
義拾るたかの飛ぶつく　光林

暮

大沢の去年りや暮一ぬ　素信
かいまくくもおてはくはこ暮　禾木
暮哀てしい合さ〇て鶉ぬ　陳之
おくれら拾まるる小田の暮　素机
田よりのおくや一日暮の春　素信
こてり暮の法の口ちくく　李池

暮ぬ乙良鶉ぬ法の光　乙良
沙鶉暮ぬ法の暮　沙鶉
鶉のおるるもるの法沢の暮　廿山
去よるるかぬこれよ二一ぬ　乃山

貯

鶉哀手ぬのを追一樽本玄　李池
本のそよ夕日ぬて鶉のあ　たため
白る色そくの哀ぬ鶉乃あ　乃后
哀の鶉きよあ本たるぬ鶉の　由聖
鶉哀手ぬ日ぬ盈て樽林　雀物
鶉のあ哀てよ去と鶉れ一や　素信

庵

夕山と下ぬ哀入て元机の春　素机
山陰くおて公屋くや山の元れ　素信
しそむあの法くしや暮乃元れ　李池
法川や砂よ鶉去遠ぬ哀れの法　杉北女

[illegible]　東山　青淵
[illegible]　有明の月　大橋
[illegible]　小倉山　鹿背
[illegible]　向ふ山　風俗
[illegible]　有明の月　芳谷
[illegible]　嵯峨の月　青屋
[illegible]　一ツ　[illegible]
[illegible]　一ツ　[illegible]
[illegible]　光林

紫山子

人のまゝあるやかしと絵の通一ツ
かゝみもとゆるのてよ色　由樹
梅の木いとい別ばや汐かし　京池
[illegible]　赤信
[illegible]　風俗
山風を記たる紫山子うち　未木
[illegible]　舟高

時子

一引よたゝやゝ時子の十八ウ　京池
東の方乃てかゝやゝ時子俗　芳谷
[illegible]　菊高
ゆゝ初ゝ時子ゝ[illegible]小田の[illegible]　青淵
[illegible]　[illegible]
紅ゝも廿よ遊ゝ時子うち　内樂
今ゝと見ゝ器ゝ川時子ゝ　乃氣
[illegible]　白路
時子紙代ゝ宝ゝ入ゝ　梅通
干個の[illegible]ゝ時子ゝ　未木
俗ゝゝ片ゝ[illegible]時子ゝ　井資
[illegible]　赤信
村田や時子の[illegible]須石叡　青屋
[illegible]　風俗
[illegible]時子ゝ　乙良
[illegible]時子俗
小道やゝゝ[illegible]時子川　浪高

磯山のきれとを見て時子が　西原
吹切て行よ行ちの方る時子が　乃山

八月

八月も井と錆られて時ちゝめ　共山
蓮とる月も枯て蓮の実くるが　与池
八月さなくも枯て小酒麦　素信

八朔

八朔や附る枯て稲の井　素信
八朔や空のき身る鳥く哉　与池
八朔と行ふて水多のくられう　風船
八朔も人の日新る田の新日　茂枝
八朔や上の場点る松仏　議拍
八朔のて気多ゝ　月屋
八朔の鈴よ打ふる所のち　素木
八朔も一反の稲と猿もて　砧山
八朔それ

秋冬

乙ゝの呂ゝ風たく根ゝ　素信

小鮒ゝ決八朔ゝ　素乳
蛾蛾山や稲ゝのゝ小菜畑　素信
鮒ゝや舟ゝ　月屋
鮒ゝよ人や生ゝの根ゝ芋　義枝
ゝの月の夜ゝの玄空ゝ　大梅
場点ゝ展ゝ　内楚
紙ゝ　一々
ゝや毎の小鮒ゝ　議拍
遊舟ゝ人ゝ舟の入ゝ　水竹
開ゝ蛾ゝ　蛾乳
送ゝ猿ゝ一人の松ゝ　たゝ
通る舟ゝ減て松ゝ稲の月　素屋
鮒ゝのゝ　光林

秋月

鮒ゝ枯く稲る月の中　梅国
鮒月と鮒ゝ月　内楚
鮒月ゝ　議拍

十五夜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十六夜

月

五月雨てそやふるの山の月　世自
行とは山一ていよいよ秋乃月　秋末
宮ゐれハ子とおもふて浦のそ　沙彫
木と水と秋あさ山や秋の月　廿八山
雲そそ〳〵風秋そそ月乃雲　保芝
月ハやはもそそぬ森の中　影を
はもなお春そそ月の後　而石
外原の隅〳〵ハ咲の月　無魚
風の吉原ふて秋の月　又舟
出さ山も先ふ月の出そそれ　月屋
月後やハそ切後のそ〳〵きそて　可大
月そ後とふてそ秋の移傳ハ　一々
原なそそあれなそ月の舟　素信
菜畑ハきねとふ海ふそ月　内楼
片谷ハ華ハもふて秋乃月　白酔
海そもぬ波都そ秋の月　与池
月は雲ふ出て秋のき軸ふ　乙れ

秋の月　定雄
月と遠て本ふ強ふもハ秋の月　文芝
そそそもさせひ月後の一ふ伝　梅園
新入も門〳〵新そ秋の月　雅嵐
人ふ〳〵のようひと出れ月の川　宗鼎
月のそ丸人の性ふ山や指の上　芳令
雲なて付おそれ秋の月　林芳
月の後やそ〳〵りハ人乃素　社雑
人そそう孫そそ秋の月　英陽
ふ人そふ筋ふ月ふ山乃月　比方
月ふ秋そ指〳〵信も指〳〵新　素屋
只雲ふそふ秋ふ入ぬ月の門　義扒
雲と遠て吟もう鶏秋の月　たゑ
人も後も文て月の〳〵照秋ふ　鶏山
風風て二後月ふ鶏秋ふ　光林
秋の月　宗
素湯一ワ呉ふそふ秋　義扒

枝

梨樹の皮とゝのこて初めて芽ふく　赤信

ゆきゝの枝ゆもりくて初枝　赤信

又えくの枝てなうゝ初枝　林芽

雪とけてきさ日のてゝ初めて芽ふく　保元

山ゐゝ初ゝ枝ゝ初めて芽ふく　光林

芽萌え

枝ゐゝの芽ふくるゝ芽ふくる　一句

弘咲のなくて初めて芽萌ぶ　林芽

枝毎に蓑虫ふくるゝ　立地

佛ゆのゝこゝはゝめて芽ふくる　赤信

夜をほゝ切てきらふ芽ふくる　西后

花野

向ひゝる雲とゝ日度のむみぶ　たゝめ

夏城をゝ日ゝてゝれおるゝ花みぶ　一句

金猩の花ゆゝられ切ゝ花みぶ　赤信

入おゝ花みの赤をくゝうゝ　乃山

一日ゝ雲ゝ止ゝるゝ花みぶ　赤色

彩雲

彩雲や黄八淀ゝ雲もゆゝ　平山

清雲ゝ彩雲の乾ゝ門四ぶ　赤信

彩雲や雲縫ゝ一筋め　赤色

側ゝ花もなくて佛ゆ彩雲ふる　宝ゝ

彩雲ゝ傳ゝ三ゝ生の秋　一句

肉藏のゝるゝゝ赤彩雲　林芽

彩雲花ゝ山ゝ八ゝ　吸山

尾ゝ花

ゝれ金てゝの尾ゝ尾ゝ赤信

花四ゝ移ゝ尾ゝ赤色

山里の淀ゝゝ尾ゝ赤信

時雨の尾ゝ入ゝ大梅

ゝゝ尾八ゝ生て尾ゝ吹　林芽

移

三日月の親ゝ移ゝ移の新　赤信

ゝゝ移ゝ移ゝ移ゝ　昴ゝ

上の撰ぶ格よ夜ゆて峰在　高砂
まの事ゆ格のよ乃さん夕義　松芝
続撰ゆ為ゆ夕ゆ格のむ来　大梅
小さ衣ゆまの出て忘格の涙　たゑ
事ゆゆゆも生まさ衣ゆ格の涙　林芽
枝さゆ松の枝ゆも格一把　岡山
戦後在の為ゆ出ゆ格の中　水月
ゆゆゆ格おゆ入ゆん為ゆゆ　月在
格の涙遠ゆ松も勅きゆゆ　世南
格更て玉ゆゆ一礎の松　梅通
新新ゆ他のよゆ格のけ　光林

屋

畑ゆれ笑て八ゆ一ゆの列　京信
捉き衣ゆとおゆ今ゆは丁　高砂
にのよゆゆつゆと乃年一　一々
為丁ゆ日夕と人ゆゆく　内裏
写てゆてゆゆゆゆゆ丁　万屋

為丁の後ゆ人ゆゆれ亀　砂山
ゆ丁の新ゆゆ丁ゆ格の反　影き
本丁ゆるゆ八別て礎の丁　清度
後ゆゆき雪ゆかれて石の春　怪孝
今ゆゆも又ゆれゆゆゆ丁後　風流
為丁の後ゆゆ為ゆの衣　乃氣
ゆして八ゆゆゆく白丁ゆく　大梅
中焼のゆ松ゆ入ゆ日ゆ丁　義松
遇ゆゆゆゆゆ為の丁　京池
雪ゆの丁ゆゆゆ為丁の春　林芽
咲衣ゆ八ゆして日ゆゆめ丁の春　世南
日ゆ丁一ゆゆゆ忘ゆゆゆ　未木
為丁ゆゆゆ八ゆゆゆの衣　京屋
又ゆ衣て衣ゆのれ歩ゆ西の丁　たゑ
ゆ為ゆゆゆよゆて丁乃為　為比
芝ゆ為ゆゆき京ゆを捧ゆ　月在
ゆ沙ゆれて衣ゆゆ礎の丁　光林

渡る　菱北

世遠ざかれたれやつくるる　素信
雁よりまだ乃ちかわたるる　芹舎
二つ二つ雁つらねつくるる　牧子
ちりまさる　素信
初よりは新もくめんつくる　逸信
ちかとて新のゆくやたるる　素信

搗衣

遠のちよ夜ふくるまで搗く　素信
小夜搗くこゑ行くは山ばかり　菱北
田よりも一つとり今搗の所　采木
暮ぬるまで又手かる搗う郷　由聖
搗終て寄せ合ふ二の搗まる　十丈
手止て近も遠きこゑ搗う　一夕
山陰の夜とこゝ〳〵つる搗ぶ　素信
を搗屋の板ふるまきうつ　九起
業後も時ふ一つ乃搗う　有美

秋のとめる金屋ふ日八搗う　好茶
氣根ふ入れそをを搗　世旨
板紙八搗子乃狩ふ搗う　光井

新酒

酔やまさるが減して酒ふ新酒ぶ　松濤
多く酒のかをりて新酒ぶ　由聖
ふ移ふや一口ふ行ふの通ふ搾　白池
初めて近搾でる新酒ぶ　風敬
参てれ八ぶ紙ふ新酒ぶ　大柳
蓋まるふて味あふ新酒ぶ　万山
一法利ふふふ新酒ぶ　菱北
乃川のまるて酒ふ新酒ぶ　素信

九月

ちもちく歩くかゝの弱山ぶ　由聖
七月の彩る日わつきうつ　万氣
ほゝのとりくふり九月ふ　井眉
菊ぶ新ふのさくふ九月ふ　有美

后月

ふるさとは宮ばらにして后の月　義孝
時雨して古しのぶをそそぐ後の月　寂蓮
行くすゑはそらにもかなしかりし后の月　鼎
おもてうつる袖はなき新やの后の月　雪雨
思ふやうなりし人やこの后の月　俊成
この木ろ後も古ふるの后の月　宗祇
ふるとしもそなたやこの后の月　宗祇
面なく星ふる空の后の月　宗長
約束のうち一人まてこの后の月　紅
本ろ古ふるんこの后の月又ふ　世尊
かくしめ枝の木ろやこの后の月　義孔
丁野のてふてこの后の月　行世
青嶺の竹は赤くこの后の月　未木
玉山とあるはまやこの后の月　なめ
古池よりうつめくこの后の月　宗長
義元の遠統こ后の月　宗信

月前

まるもれは水もたるりやこの月前　内裏
星とは木樹もおのおの月前　後嵯
かくれの家はのこの月前　宗池
家のこの月の雲と巷時こ月前　宗信
載てまこ山遠くこの月前　風車
及えて人ても遠ふれこの月　光林

秋

れ秋の久よまてる秋の人　風雅
れ秋や月の清こは舟乃中　宗信
れ秋やまこ夜波よ紙の雲　宗信
み指のふくまてこの雲乃秋　芝崎
れ秋や夜のおれこの中　義孔

もとこそ枝まさるべけれ　のけ蕨が　ふる院
けれ枝や限る降る雨法やとき　林芽
限のえておてけれ枝の名残が　迷ひ

萩

枝割る延る萩の名にうる　後嵯
咲あり日と限られて萩の色　往生
名のく八枝萩てなく後れ咲　風雅
名のく不の萩も散きて萩色　林芽
残れとえく歩め十日萩　京信
日ひらや萩と名のしめ　新令
る池陽とかるる萩の見しが　京屋
ひと信情八名とや萩葉　京魚
萩の名や葉地ると小堅拍　後所
京られ萩八とも名る雀う家　京洛
川名とや萩一とのまや二籾　たあ
二とのきりとあ山や萩一義　西原
舟てまさまのまま紅や萩色　月屋

こせる萩自分も一夜色　芝伸
家とと女とつ仏主萩花　木末
山との萩も紅も日南下　京扇
や仏芝の萩の住乃くそう　世萩
おとなつすぬ前や萩色　一々
まとやや仏くと仏て萩の家　景を
萩咲や弱日と仏れしまの中　雅義
刺木ほひ畑きしいや萩色　乃山
行萩やとれもなてを萩のれ　京藥
撫萩も法八名れ八とを屋　与池
萩の名とと名とのまや名の家　出人林

未枯

く枯や屋の屋よきちんの古　京洛
未枯や籠ようつとさとの名工　内蓮
く枯や日八一とんよきれ入江　たあ
未枯や村まと八ちく文　了北
く枯や京とれき一京山　風雅

五葉

五葉ちさ松は枝ぬけ木下ぶ　板屋
十八ひと深き松乃屋根ふる　一ぢ
はひとを立ぶのひろ五葉の松　赤信
接雪や松のうきの屋根五葉　赤信
松葉やうくひろ国ろ家はうう　与池
五葉ちの陰ぶ絵ぶのあ葉ぶ　赤屋
俗ぶて仏ぶ言ぶあるあ葉ぶ　浪雪
古池ぶ流やあ葉ぶ松のう什　白路
五葉おて陰ぶ門ぶあ葉ぶ　眉山
接絵ぶふぶも移ぶぬ松ぶな　茅舎
左絵ぶふぶてあ葉ぶ一人ぶ　九記
移ぶて峠ぶふぶあ松ぶ　百堂
おふふ〳〵ふぶふふみちぶ　徐々
ひぶやふぶふふふ新ぶ松ぶ　南楚
秋ぶ絵ぶ松ぶふふふふふふ　未木
日南りふをあふふふ五葉　浪雪

こふふふて松ふふ公の五葉ぶ　蕉孔
を山や松葉ぶふふて五葉ぶ　世雪
陰ぶて陰ぶあ葉ぶ陰ぶ新絵ぶ　芭蕉
陰山ぶふふふふふふ五葉ぶ　百楼
星ふふぬぬ新ふふあ葉ぶ　光林

木実

ぶぶふぶぶ陰ぶぬ陰ぶ木の実　浪雪
柱ぶふぶ廿ぶ言ぶ五升ぶふふ　赤信
新陰や柱ふれて舟の山ぶ　赤信
廿信ぶ栗ぶ黒ぶ黒や栗乃屋　雀雨
柿ぶのぶふや花ぶぬぬぶ　南楚
実ぶとりぶぶぶぶぶ柿ぶ　光林

柿

陰ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵ぶる熟柿ぶ　乃山
木ぶふ陰ぶと柿のぶふ〳〵ひぶ　南楚
赤ぶふふふ熟柿ぶ柿ぶふ山ぶれ　竹仙
五葉ぶふふふぶぶ柿ぶ　赤信

[illegible]

[illegible]

[illegible]

巨勢野やもちおかきさの夜の中　光基

落水

落されて切籠に残る一ひら　一ひら

[illegible]

[illegible]

一日と日八手うてあるしゐ　為忠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十月

十月や冬ゐ[illegible]ある松をふく風　為氏

十月や井南ゑ〳〵く小松原　摩敦

十月やちはえてもよゐの山　京池

十月やさほうせる耳の庭　内侍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小春

水屋の砂も小春の日和かな　素信

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小比叡ハ大きなる一ツの雲ハ人外
ゑたての色乃味しく時雨
つゝ降時雨ハ後の雨や霧のさま 水月
後ハ今雲ハ雨ハ雨ハ 柏
時雨もまるりまて菱乃二ツ岩ハ 景き
雲かゝるハ口ハ口も家よ入口ハ 松濤
鶴松の一さゝゑ雲ハ時雨ハ 京池
折絲とるはまや雲の跡の荒 悉記
時雨ハ雲ハ雨ハ時ハ雑 素信
折ハの高ハはれ之ハ高ハ 未木
遠ハや時雨ハ雨ハ後の雨 由整
人臭て鶴人殖くれ 陳之
時雨ハ大舟川く横きれ 芝伝
ま紅山の口ハ山ハ時雨ハ 不山
時雨や雑遠ハ之の遠乃 孫乃
芦ハ雨て後ハ後く時雨ハ 北海
吹除ハ時ハ 廿山

分あ雨ハ雨ハ雨雲ハ雨ハ
丁縁ハ苔雨の雨ハ時雨 後雨
雲ハ雨ハ雨ハ雨ハ 一ハ
雲ハ除の海ハ時雨ハ たゝめ
鶴ハ雨ハ時雨ハ雨ハ 横遠
ハ雨ハ折ハ雨ハ雨ハ 屋根
ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ 素屋
ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ 西屋
ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ 世旬
雲ハ雨ハ雨ハ雨ハ 十二 孫夏
口ハ口ハ口ハ雲ハ雨ハ 門城
時雨ハ後ハ後ハ雨ハ 光基

木枯

木ハ枯ハ枯ハ枯ハ枯ハ 呂玉
風や米ハ後の枝乃絶して 世旬
木枯の中ハ木ハ木枯ハ 芹舎
風やゝてもゆるむ笠乃 紅 陳之

木枯の声を初しや栗田山　横通
風さそふ[illegible]ちやそ[illegible]　京池
木枯と金閣寺[illegible]　素屋
風の息まる月乃七沙弓　護物
風や[illegible]　万庵
木枯や[illegible]　紙子
[illegible]　内藤
風や[illegible]　たゝあ
木枯乃や[illegible]　鼎
風や一夜よたまゝ舟の旅　杜鵑
木枯の[illegible]　義柱
風や牛よりおそく[illegible]　素信
風や狂乃身て[illegible]　[illegible]
木枯や山[illegible]　素洒
風や未ちゝ乃なまゝしい入　一々
風や却つて[illegible]　乃山
木枯や[illegible]小田乃水　光林

[illegible]　たゝあ
[illegible]　素信
[illegible]　[illegible]
[illegible]　風旅
[illegible]　[illegible]
[illegible]　素洒
[illegible]　九起
[illegible]　廿人山
[illegible]　[illegible]
[illegible]　由聖
[illegible]　一々
[illegible]　[illegible]
[illegible]　万庵
[illegible]　[illegible]
[illegible]　世自
[illegible]　光林

炉開

[illegible]

霜

[illegible]

初雪

[illegible]

雪

汁一夜あれて今迄ふるの山　与池
粥もとろるる新しく　やまられる　高陽
ほとの雪ふる夜の　やまの山　又外
まえ雪さえかくるの　月うち　景を
よれ隠まれてふる　やまの里　爲乳
なりとふるめく　やまの里乃　梅通
雪結や竹垣ととう　てあうち　素信
雪ふるも雪ふるうそ　雪のて　雪乳
ふと八百切れる　雪乃雪　素屋
山まとはの様ある　雪山　乃山
よれ月の出て星もか　雪の京　たあ

雪ふて新く根ふる　雪の山　仮山
切れしと新ふや　雪乃ふる　井き
雪新の雪八屋まて　ふて　陳雪
雪宝の月ふき　ふて　乙良
ふ汐もかふて雪の小雪ぶ　雪冬
雪時ふる　雪ふる斧乃ふ　一ふ
吹結ふ雪のまりや雪ふ　海路
山ふの二つよりて雪乃原　九記
吹りやふの月ふも星一つ　帳兄
ふふふの雪ふよ雪のふれ　雪帝
月ふふふふふふふふ　月雪
人新もふふよ雪ふ帝の雪　雪楽
中雪ふ雪ふて雪ふふ　平山
梅のふる止く海や夜の雪　林芳
雪ふまふふる雪の雪　淡所
月ふふ雪ふは梅や月夜　水外
一日ふて論ふふう竹の雪　紀ふ

霧

氷

寒サ

史桶

[illegible]山の[illegible]口よりてもやはせ桶　主信
一[illegible]ゝ[illegible]ゝて[illegible]る史桶　意忠
[illegible]清ゝ[illegible]桶ゝ[illegible]の[illegible]の[illegible]　大楊
[illegible]ゝて[illegible]桶　紀子
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]桶　[illegible]冬
[illegible]桶　[illegible]

樋

[illegible]ゝ[illegible]ゝ樋　[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]樋　[illegible]
[illegible]樋　[illegible]
[illegible]樋　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

帰花

夕ぎりのたちまちもいつれ海棠　文信
立まれハくれ方まや　佐花　景九
野のえ行さおくやうつろ　芙蓉
を行ちこ清くうつ　大梅
中ちやうもちつぬ　桑乳
おりてこれハ海乃かつ　桑乳
てるれハ限ハとうねこうも　たゝあ
手ハ星の手くうかく時も　風流
金の花さおもむさんやつて　赤傷
新ものせ玉ようつも　九起
名ハこれ秋のやうつ　浪高
て時ハ芙蓉の　京池
帰りの公任の返事を　光林

山茶花

ほれ寒ハ山茶ものも　浪雫
山茶花ハ日と咲ていし　有義
山茶花ハ一筋ましし　海棠
日ハ山茶花の山茶ものも　大梅
山茶ものもほれ　勿屋
山茶ものハ紅くも二本ましし　一白
山茶ものの方けをし　松の屋
山茶花ハ山茶花の　文信
山茶花ハ海棠ハ　芙蓉

牡丹

月ハ牡丹ハ夜市ハ　牡丹
ものあ　芙蓉
元ハ代の松ハ　牡丹
物の方ハ　芙蓉
新ものハ　牡丹
大根引

大根引ハ海のうゆ　芙乳
ものの引くうや大根引　義拾
土大根ハ山ものの　文信

引旬と受人のきこゆく大根なり護摩
をゝかと法会より大根うる ちまち
祝儀さきんめまを白大根引 宝ゝる
引ゝ行宵なゝる大根うる 切芝
為ゝ切大根白紙 西后
新々よめその祝や大根引 内裏
稲舟と田とゝんや大根賣 京池
山根と小家もゝす大根引 乃山

ゝ木立

破ゝ限てゝゝ小ゝ味ゝ結 迷宮
小体ゝ稲ゝのゝゝ宵ゝ木立 行芝
中ゝ乃ゝゝん猪ゝ乃ゝ木立 蒸机
ゝ木立 行ゝ結ゝゝ 書院
根ゝゝゝゝ造ゝゝ ゝ京

ゝ菜

ゝ苟や芝のゝく照ゝ猪ゝ 蒸机
ゝ苟やゝゝもゝゝけゝ向い たゝ

ゝ苟やゝ四ゝ人のゝゝく日 有乳
ゝ苟の今ゝ北ゝゝゝ 内裏
ゝ苟や建ゝゝれゝゝの上 京宮
ゝ苟や世ゝ稚ゝゝ 茂樹
ゝ苟や平宮ゝ細きるの ゝ苟
ゝ苟やおゝゝゝ小ゝ乃ゝ 挑灯
ゝ苟やゝ新ゝ二ゝゝ 乙外
ゝ苟やゝゝゝ壁の ゝ乳
ゝ苟や切おゝゝる苟の中 影
ゝ苟のゝゝ結ゝ 風呂
ゝ苟のゝゝゝ二日 光林

水仙

ゝ仙の資ゝ人間後の水宮 蒸机
ゝ仙やゝゝ孫のゝ 影
ゝ仙の袋ゝ入ゝゝ ゝ信
ゝ仙の枝ゝゝゝ 内裏
ゝゝゝゝ仙 たゝ

[illegible]

[illegible]

杜若

[illegible]

何時よ[illegible]乃ゆゝや杜若乃根
川越の人[illegible]
生茂[illegible]
乳乃今[illegible]
[illegible]
小[illegible]
人[illegible]
ゆゝ[illegible]

河豚

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

山之流風

[illegible]

水る

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一説に八重咲とあり くさぐさ 八重
牡丹 牡丹は枝にて切るとも根にて切るとも
見しれぬ可しとも 屋敷 乙 乙
芍藥 芍藥は根にて切るとも 芍藥
平戸にて牡丹 牡丹 芍藥

紫雲英

かすみの帆にたちてそのほとり 古歌
接待 接待はゆるやかに池のそば 芍藥
方ゆかせ 方ゆかせ 方ゆかせ
そのほとり 小堤 一つ 學歌
夫れの手 夫れの手 夫れの手
孫和の人 孫和の人 殘る 蓮花
とりかへ 蓮の葉 蓮花
立ちかへ 立ちかへ 立ちかへ
とりかへ 川 川 川
手つて 手つて 手つて
とりかへ とりかへ とりかへ

蓼 蓼 蓼

[illegible]

腰巾

[illegible]

紙衣

[illegible]

十一月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二月

寒入

炭焼

[illegible]

[illegible]

[illegible]

歳暮 限題

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四季雜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松杉も社のたちつゝのみ　経尹
川筋の狗尾ふくや秋の風　全　花世の
法華堂やたゝる光や庭の月　まち池
孤雲に二つも秋のしらくも　郭翁
うすとおもへいさゝか萩の露　市柱
庭の月法やたゝ山の一ぱし　雅意
木かくれにみるおもしろ秋の夕　陸奥
荒ひろもろ砂川や秋かれに　宗古
木のまより行やまろの吹抜のまゝ　郭翁
ゆく末をみやゝ乃おる曲草　曲草
一つ初て来ゝと金つめるの花　慈く
初雪の降ゝ計ゝ月ゝ見ゝ　徐中
ゝうてゝ見ゝ人ゝて侍ゝ　伯ゝ
逢ゝ人ゝ多ゝ夕ゝ　ムツ
庭ゝ雪ゝ降ゝ　ムツ

詞花軒集跋

近代ゝ之句時法の句の句と
異ゝ歌ゝ歌ゝ人法の句と
歌八今人法の句と
進ゝ後学ゝ

俳諧之用硯貝　袖中小冊全

自玉菴光林輯

四季ゝ乾坤植物生ゝ
ゝ名ゝ社法の句と
ゝ支離ゝ用ゝ
ゝ四季雜ゝ五門ゝ
ゝ俳諧ゝ
ゝ出ゝ

芭蕉翁故郷傳　伊陽山芭蕉翁著　三冊
宿花　青芝園小林著
此花菴ゝ新撰

第一代四世之誕生ゝ年契ゝ
俳諧ゝ

次第と浮世うつりて手紙の文句相違無百五十四年忘退悔くやまれる事多く西教の輯篇一冊

鶯の笑ふ春の夜乃ほろ月通 表紙西入

歌 此花菜 [illegible] 補注

淑世会村の補注と墓字のてを乃

なるべのちと郷名の所と古歌と引合

かしら書くと略字と考へん

園井菴の藏板

日本橋通二丁目 須石屋清兵衛

東都 本石町十軒店 英屋大助

寺町三条通 九屋長兵衛

洛 五条通博物町 丁子屋定七

市町六条橋通 河内屋和助

浪花 日本橋小伝馬町 伊勢屋平兵衛